最近の需給状況について ~今夏の需給状況~

2025年10月14日

電力広域的運営推進機関



- 今夏(6~8月)については、記録的な高温となった。
- 平均気温については、昨年、一昨年の記録を大幅に上回り、3年連続で最も高い記録となった。
- 猛暑日の延べ地点数の記録も更新した。

日本の夏(6~8月)平均気温偏差の経年変化(1898~2025年)

3.0 トレンド=1.38 (℃/100年) 気象庁 +2.362.5 [2025] 2.0 +1.761.5 [2024] 1.0 0.5 0.0 -0.5-1.0-1.5 -2.0 -2.5-3.01890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 年

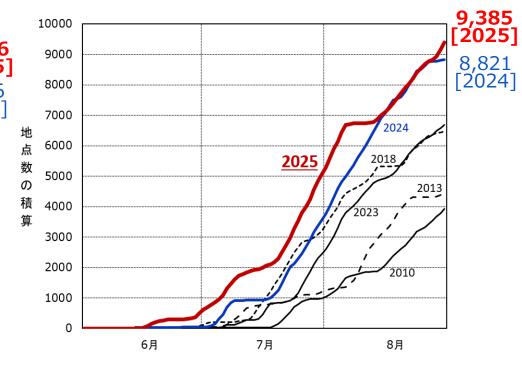
-●-: 平均気温平年値からの偏差(国内15地点の平均値)

---: 偏差の5か年移動平均値

---: 偏差の長期変化傾向(この期間の平均的な変化傾向)

※偏差の基準値は1991~2020年の30年平均値

全国のアメダス地点で観測された猛暑日の地点数の積算



1991-2020年平均からの差

(2) 2025年度夏季の需要状況について : 全国および各エリアの最大需要の発生状況

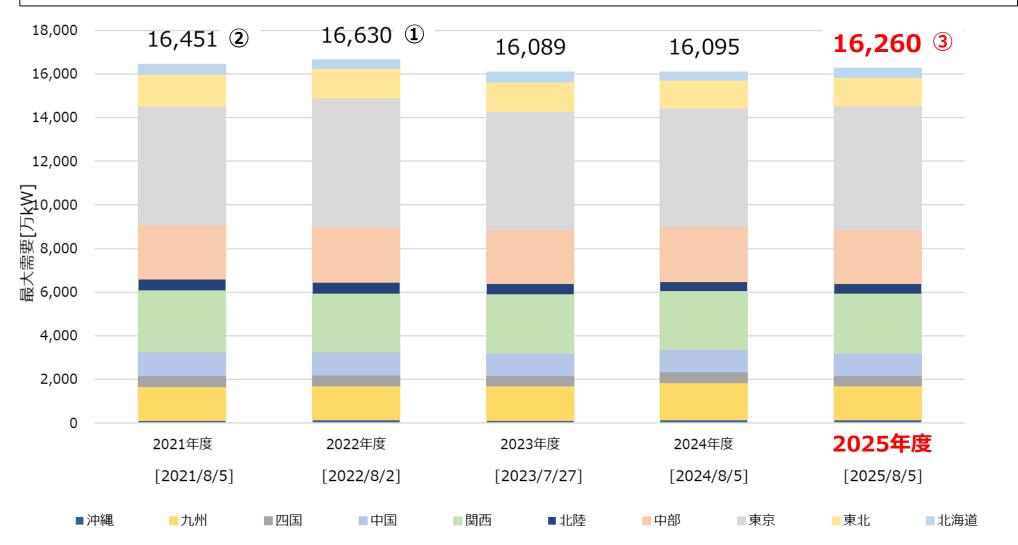
- 九州エリアを除くエリアにおいて、H3最大需要を超過。
- 北海道エリアでは、夏季を通じてのH1最大需要を超過(夏としては過去10年で最大)。
- 東北エリア・中部エリアでは、発生月(7月や9月)のH1最大需要を超過。

	実績			夏季需要見通し [※]				
エリア				夏季最大[8月]		最大需要発生月		備考
	最大需要日	時間	最大需要 【万kW】	H1最大需要 【万kW】	H3最大需要 【万kW】	H1最大需要 【万kW】	H3最大需要 【万kW】	
全国	8月5日(火)	14~15時	16,260	16,850	15,916	-	_	H3[夏季見通し]を超過
北海道	7月23日(水)	11~12時	491	486	419	[7月] 486	[7月] 416	H1[夏季見通し]を超過
東北	7月29日(火)	14~15時	1,385	1,418	1,314	[7月] 1,341	[7月] 1,281	H1[発生月]を超過
東京	8月6日(水)	13~14時	5,754	5,936	5,491	_	_	H3[夏季見通し]を超過
中部	9月2日(火)	14~15時	2,463	2,520	2,313	[9月] 2,462	[9月] 2,212	H1[発生月]を超過
北陸	8月4日(月)	13~14時	504	509	473	_	_	H3[夏季見通し]を超過
関西	8月5日(火)	14~15時	2,738	2,824	2,669	_	_	H3[夏季見通し]を超過
中国	8月6日(水)	15~16時	1,018	1,078	1,018	_	_	H3[夏季見通し]を超過
四国	8月6日(水)	14~15時	488	499	476	_	_	H3[夏季見通し]を超過
九州	8月1日(金)	13~14時	1,574	1,672	1,583	_	_	_
沖縄	7月1日(火)	14~15時	161	180	160	[7月] 179	[7月] 160	H3[夏季見通し]を超過

(3) 2025年度夏季の電力需給実績の検証

: 2021~2025年度における全国最大需要実績の推移

■ 今夏の全国最大需要は、昨年度を上回り、至近5年間で3番目の実績であった。





(4) 2024年度との比較した 今夏の全国電力需要動向(月別)

- 各月で昨年度並みの高気温となり、最大需要(kW)・平均日電力量(kWh)もほぼ同程度となった。
- 7月は平均日電力量(kWh)、8月・9月は最大需要(kW)が昨年を上回った。

【各月の加重平均気温※1】

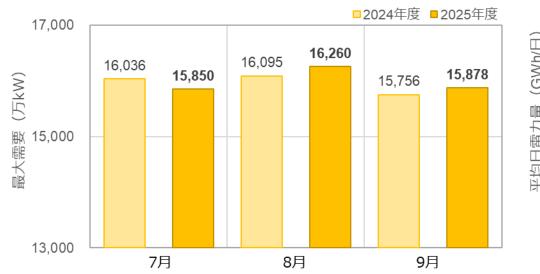
単位:℃

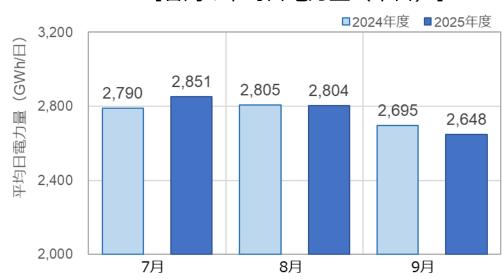
	7月	8月	9月
2025年度(A)	29.0	29.7	26.8
2024年度(B) ^{※2}	28.8	29.5	27.2
(括弧内の気温差はA-B)	(+ 0.2)	(+ 0.2)	(▲ 0.4)
平年気温(C)	26.2	27.4	23.8
(括弧内の気温差はA-C)	(+ 2.8)	(+ 2.3)	(+ 3.0)

※1 一般送配電事業者の本店所在地の日平均気温の需要比率を用いて算出した気温

【各月の最大需要】

【各月の平均日電力量(平日)】



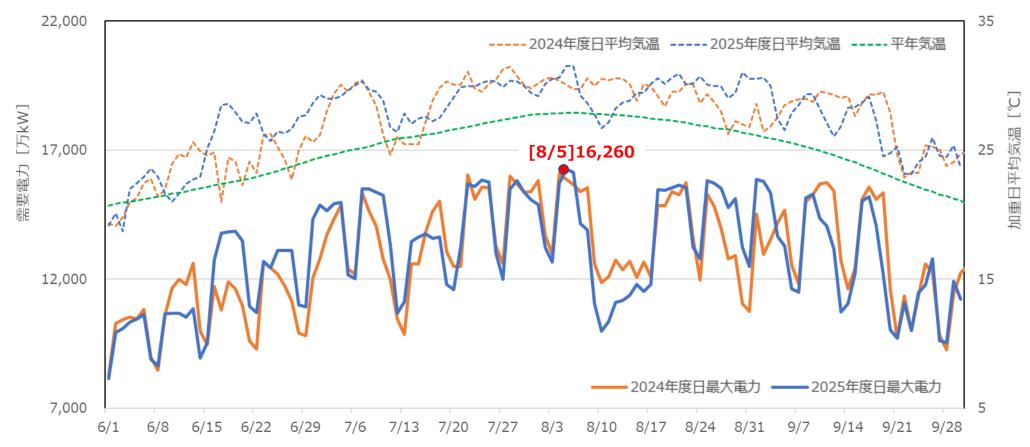


^{※2 2025}年度の暦日と曜日を合わせて算定した気温

(5) 2024年度と比較した 今夏の全国電力需要動向(日別)

- 6月中頃から期間を通して平年気温を大きく上回り、需要の高い状況が続いた。
- 9月は、上旬まで8月並みの高気温が続き、昨年を上回る需要となった。

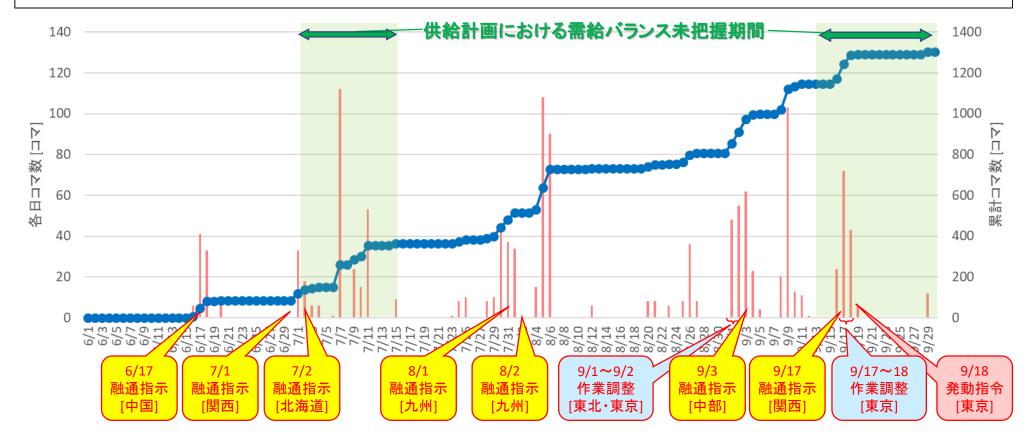
全国最大需要発生時の全国需要推移





(参考)供給力提供通知発生状況(6月~9月)

- 今夏は、H1想定需要超えは限定的であったが、早期梅雨明けや残暑継続の影響により、供給力提供通知が多発し、融通指示に加えて、9月には後半まで作業調整、発動指令電源の発動もあるなど、需給の厳しい状況が継続した。
- 改めて、需給バランス未把握期間(7月前半、9月後半など)を含めた、よりきめ細かな需給バランス 把握の重要性が顕在化した。





※供給力提供通知は、実需給の前日17:30以降、翌日の広域予備率が8%を下回ることが 見込まれるときに発出される

- 9/22気象庁発表の寒侯期予報によると、概ね平年並の見込み。
 - > 冬の気温は、全国的にほぼ平年並の見込み。
 - 冬の降雪量は、西日本日本海側で平年並か多い見込み。

